

企業会計基準公開草案第 89 号「金融商品に関する会計基準（案）」等に関する

コメント

2026 年 2 月 6 日

公認システム監査人、特定行政書士 IFRS・連結会計・公共政策コンサルタント

田淵 隆明

【質問 1】（開発にあたっての基本的な方針に関する質問）⇒基本的に同意するが、**一部不同意**である。

・「条件変更」について、IFRS9 の対応する基準を取り入れないことの合理的理由がない。これは IFRS との余計な乖離を作るだけなので、取り入れるべきである。

・「手形」という用語が散見されるが、2026 年度末で廃止される以上、「電子記録債権」などの用語に置き換えるべきである。

※1.貸倒引当金の設定の対象範囲の見直しを行ったことは高く評価する。

※2.「敷金、将来返還される差入預託保証金（建設協力金及び敷金を除く。）及び預託保証金であるゴルフ会員権については現行の金融商品会計基準等における取扱いを継続することとした。」の部分は、実務に適合しており、積極的に評価できる。

※3.EU 委員会の EFRAG が IFRS9 の一部を適用除外(カーブ・アウト)した際のように、具体的に IFRS7 や IFRS9 の「この項とこの項は除外する」と明示した表が、補足文書または解説書に記載されるべきである。

【質問 2】（範囲に関する質問）⇒基本的に同意するが、**一部不同意**である。

・「その他有価証券に分類される債権」についても、「予想信用損失モデル」を原則的に適用すべきである。適用が極めて困難である場合については適用除外も止むを得ないが、わざわざ、ここに IFRS との乖離を許容する積極的な理由無いと思われる。斯様な**余計な寛恕規定は JGAAP の品質と市場での信用を毀損するだけ**であり、強く反対する。

※1.「契約資産」は、例えば、建設業会計などのように「売上/役務収益」と「請求」が単月では対応しないような場合において非常に重要となる。ここで、契約資産に「予想信用損失モデル」を適用したことは高く評価できる。

ただし、2021年度のJGAAPの改正で導入された「契約資産」については、特定行政書士・会計コンサルタントの立場からすると、**「契約資産」の適切な利用が浸透していない現実が散見される**。ASBJの側からも注意喚起が必要であると思われる。

また、簿記の教育現場においても、民法上の「債権」(≒期限以外の停止条件のない債権であり、2021年度以降の「債権」)との関連性が正しく教えられることが少ないため、会計システム構築の現場で支障が生じている場合が散見される。

【質問 3-1】(信用リスクの著しい増大の判定に関する質問)

⇒基本的に同意するが、**一部不同意**である。

・「簡素化された判定方法」の10段階の判定方法は、金融機関の現場の実務にも適合しており、高く評価できるものである。しかし、**【質問 9】**に記載するように資料間の矛盾があるので修正が必要である。

・2019年12月に廃止された悪名高き「金融検査マニュアル」の名前が何故急に唐突に登場するのか、極めて疑問である。削除するべきである。

【質問 3-2】(予想信用損失の算定方法に関する質問)

⇒基本的に同意するが、「簡素化された予想信用損失の算定方法」の**一部について強く反対**する。

(2)将来予測シナリオ

複数のシナリオの用意と比較検討を義務化し、統計的数値には、その「平均値」・「分散」・「標準偏差」の明記を義務付ける必要がある。

なお、2011年度以降の高校のカリキュラムでは、「数学Ⅰ」または「数学A」で、統計の基礎は必修単元であり、平均・分散・標準偏差などは学習済である。また、現行カリキュラムでは、正規分布を用いた統計的推測(推定・検定)が「数学B」の必修単元となっているので、筆者の指摘は、経理部門に、**国公立大出身の理系または文系出身若手を1人入れれば解決可能**である。このような、私立文系専願者の利害に偏した寛恕規定は百害あって一利なしである。削除を強く求める。

※中部電力の浜岡原子力発電所の不祥事にもあるように、統計におけるシナリオの設定は非常に大きな意味を有し、恣意的に結論が捻じ曲げられるリスクがある。

(3)時間価値の考慮

「実効金利の代わりに約定金利を用いること」の許容は不適切である。
斯様な余計な寛恕規定は JGAAP の品質と市場での信用を毀損するだけであり、強く反対する。

【質問 4】（償却原価に係る会計処理に関する質問）

⇒基本的に同意するが、「償却原価法」の取扱いの一部について強く反対する。

・償却原価法について「定額法」を許容するべきではない。IFRS の諸規定、及び、JGAAP の資産除去債務と同様、「利息法」に一本化するべきである。斯様な余計な寛恕規定は JGAAP の品質と市場での信用を毀損するだけであり、強く反対する。

高校のカリキュラムでは、会計学で言う「年金原価計算」に相当する「等比数列」の分野は、大半の高校生が文系・理系を問わず履修する。現行の高校のカリキュラムでは「数学 B」である。筆者の指摘は、経理部門に、国公立大出身の理系または文系出身若手を 1 人入れれば解決可能である。このような、私立文系専願者の利害に偏した寛恕規定は百害あって一利なしである。削除を強く求める。

※手数料等の範囲について、IFRS9 と同様の取り決めとしたことは評価できる。

【質問 5】（開示に関する質問）

⇒基本的に同意するが、一部について強く反対する。

「信用リスクに関する注記事項は、連結財務諸表において注記している場合には、個別財務諸表において記載することを要しないことを提案している。」の部分は、有害であるので、強く削除を求める。斯様な余計な寛恕規定は JGAAP の品質と市場での信用を毀損するだけであり、強く反対する。

【質問 6-1】（適用時期に関する質問）

⇒全面的に同意する。

【質問 6-2】（経過措置に関する質問）

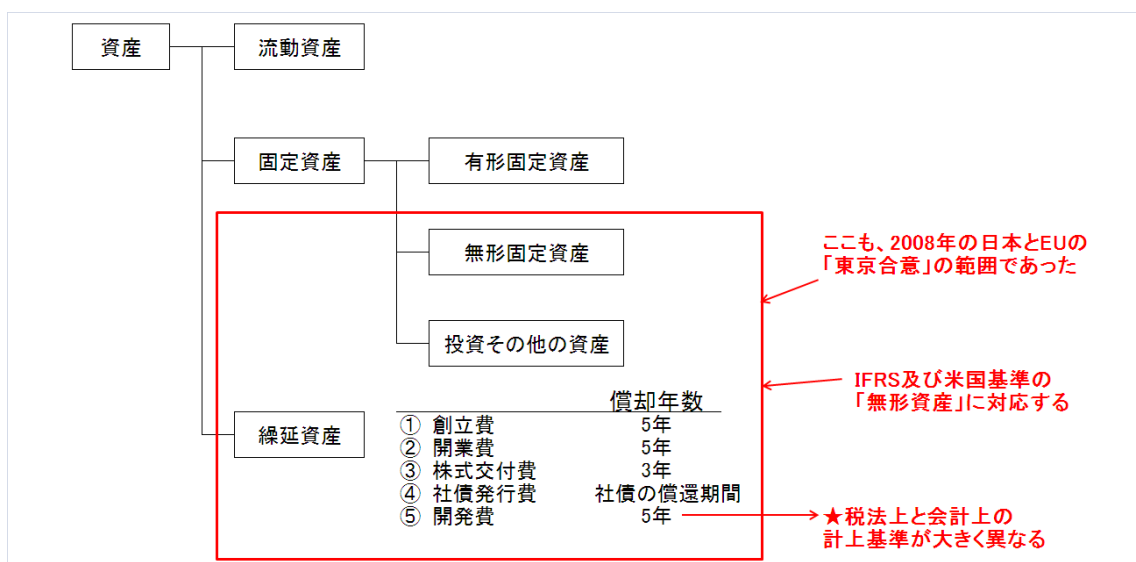
⇒消極的に同意する。

【質問 7】（設例及び開示例に関する質問）

⇒全面的に同意する。

【質問 8】（その他）

・ASBJ にとって大きなテーマであった「金融商品に関する会計基準の見直し」（本公開草案）及び「新リース会計基準」は一段落したので、キャパシティに余裕ができた筈であるので、早急に、我が国の産業界の国際競争力を触み続けた「実務対応報告第 19 号」の第 5 項（＝研究開発費の一律費用処理）の即時廃止、及び、2024 年 8 月に発表された新基準の開発に直ちに着手するべきである。



※2008 年の東京合意においては、「IFRS 無形資産」全体＝JGAAP の「無形固定資産」及び「投資その他の資産」及び「繰延資産」に相当がコンバージェンスの対象であった。

この是正が早期に実現していれば、研究開発費は資産計上可能であり、我が国の産業界の塗炭の苦しみは早期に解消し、いわゆる「失われた 30 年」は 10 年で済んだ筈である。

まさに、会計制度の不備が齎した災禍であると言わざるを得ない。

★なお、SAP の「内部指図」（KO01/02/03）では、研究開発部門で発生した労務費・経費を指図決済として「建設仮勘定」として資産計上し、IFRS の「無形資産」、JGAAP の「投資その他の資産」に振り替えるということが、少なからぬ製造業等で実施されており、勿論、監査上も認められている。

・防衛増税対応のハプコメの場合のように、質問を 1 つに纏めるということが無かったのは良い。

〔ASBJ ディレクター湯原氏による解説文書〕について

・この文書自体は高く評価できる。

・p4 及び p5 について…「契約資産」は、例えば、建設業会計などのように「売上/役務収益」と「請求」が単月では対応しないような場合において非常に重要となる。ここで、契約資産に「予想信用損失モデル」を適用したことは高く評価できる。

※2021 年度の JGAAP の改正で導入された「契約資産」であるが、会計コンサルタントの立場からすると、「契約資産」の適切な利用が浸透していない現実も散見される。ASBJ の側からも注意喚起が必要であると思われる。また、簿記の教育現場においても、民法上の「債権」(≒期限以外の停止条件のない債権であり、2021 年度以降の「債権」)との関連性が正しく教えられることが少ないため、会計システム構築の現場で支障が生じている場合が散見される。

・p7 について…〔図表 2〕は、銀行の融資現場の実業務等にも適合しており、大変分かりやすく、有用である。

・p12 について…〔図表 3〕は、銀行の融資現場の実業務等にも適合しており、大変分かりやすく、有用である。

【質問 9】(補足文書(案)「に関する質問)

この補足文書を作成したこと自体は評価できる。しかし、下記のような矛盾があるので修正されたい。

・p8 の内部格付け 1~10 と、湯原氏による解説文書(以下、「解説文書」と略す)の p7 の〔図表 2〕との整合性が取れていないので、誤解を惹起するので、当該矛盾を解消する必要がある。

・p11 の項番 33 の図では、「中間格付」が「格付 5」となっており、「要判定格付」が「格付 6」となっており、これは「解説文書」の p7 の〔図表 2〕との整合性が取れていないので、誤解を惹起するので、当該矛盾を解消する必要がある。

・p12 の項番 37 の図と、「解説文書」の p7 の〔図表 2〕との整合性が取れていないので、誤解を惹起するので、当該矛盾を解消する必要がある。

(以上)